



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **2000319130 A**(43) Date of publication of application: **21.11.00**(51) Int. Cl **A61K 7/025**(21) Application number: **2000168524**(22) Date of filing: **06.08.92**(62) Division of application: **04233144**(71) Applicant: **KANEBO LTD**(72) Inventor: **SATO NORIMASA**(54) **LIPSTICK COMPOSITION**

## (57) Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a lipstick composition having few feeling of drying, few sense of incompatibility and unremarkable coming off of color of a lipstick because of external friction such as drinking, eating or the like by including a specific metal salt, a metal hydroxide, a water-soluble alginate, a specific metal chelate of tar coloring matter and a specific alcohol.

**SOLUTION:** (A) A compound selected from a di- or

trivalent metal salt (e.g. calcium chloride) and a di- or trivalent metal hydroxide (e.g. aluminum hydroxide), (B) a water-soluble alginate (e.g. sodium alginate), (C) a metal (e.g. aluminum, barium) chelate compound of a red-based or a orange-based tar coloring matter having a -COONa group or a -COOK group in the structure and (D) a monofunctional alcohol having <sup>3</sup>16C and being an oil component having liquid appearance at 20°C are included. Preferably the components A, B and D are 0.1-5 wt.%, 0.1-5 wt.% and 15-45 wt.% in a solid lipstick respectively.

**COPYRIGHT:** (C)2000,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-319130

(P2000-319130A)

(43) 公開日 平成12年11月21日 (2000. 11. 21)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

A 6 1 K 7/025

識別記号

F I

A 6 1 K 7/025

テーマコード(参考)

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2000-168524(P2000-168524)

(62) 分割の表示 特願平4-233144の分割

(22) 出願日 平成4年8月6日(1992. 8. 6)

(71) 出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 佐藤 昇正

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘

紡株式会社化粧品研究所内

(54) 【発明の名称】 口紅組成物

(57) 【要約】

【課題】 本発明は乾燥感や異和感が少なく、飲食等の外的摩擦での口紅の色落ちが目立たない口紅組成物を提供する。

【解決手段】 本発明は2～3価の金属塩及び2～3価の金属の水酸化物の群より選ばれた少なくとも1種とアルギン酸の水溶性塩と構造式中に-COONa基又は-COOK基を含む赤色系又はだいたい色系タール色素の金属レーキ物の少なくとも1種と20℃に於ける外観が液状である油成分とを含むことを特徴とする口紅組成物である。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 2～3価の金属塩及び2～3価の金属の水酸化物の群より選ばれた少なくとも1種とアルギン酸の水溶性塩と構造式中に $\text{—COONa}$ 基又は $\text{—COOK}$ 基を含む赤色系又はだいたい色系タール色素の金属レーキ物の少なくとも1種と20℃に於ける外観が液状の油成分である炭素数16以上の一価アルコールの少なくとも1種とを含むことを特徴とする口紅組成物。

【請求項2】 20℃に於ける外観が液状である油成分が炭素数3以上の一価アルコール又はコレステロールと炭素数8以上の脂肪族カルボン酸の一塩基性酸又はアジピン酸又はオキシステアリン酸又はコハク酸又はリンゴ酸とのエステル化合物の少なくとも1種であることを特徴とする請求項1記載の口紅組成物。

【請求項3】 20℃に於ける外観が液状である油成分がエチレングリコール又はプロピレングリコール又はネオペンチルグリコール又はグリセリン又はジグリセリン又はトリメチロールプロパン又はペンタエリスリトールと炭素数7以上の脂肪族カルボン酸の一塩基性酸とのエステル化合物の少なくとも1種であることを特徴とする請求項1記載の口紅組成物。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は乾燥感や異和感が少なく、飲食等の外的摩擦での口紅の色落ちが目立たない口紅組成物に関する。

## 【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】口紅の本来の機能は唇を彩り、顔面の血色を良く見せ、華やかな表情を演出するにある。働く女性、多忙な女性が増加傾向にある現在に於いて、口紅の化粧効果の役割は他のメイクアップ化粧料に比べ非常に重要と言える。何故ならば、ベースメイクアップ化粧料や他のメイクアップ化粧料を使用せずとも、たった1本の口紅があれば血色の良い、華やかな表情を演出することができるからである。従って、最近では髪形を整え、眉をかき、口紅を塗るだけの化粧傾向も働く女性の間では見られるようになってきている。そこで、従来に増し、多忙な女性達は口紅の化粧直しの手間を惜しみ、その化粧効果の持続性に多大な関心を寄せるようになってきたのである。しかし口紅はその化粧効果、官能特性を満足させ得る意味で油成分と着色成分以外の構成は考えにくく、その化粧効果の持続性を向上させる為にはごく限られた手段しか取り得なかったのである。即ち、高粘着性油性成分又は固形油性成分若しくは着色剤を多量に配合する、さらには染色性を有する色素を配合する方法が最も汎用されている。又、やや工夫された方法として、揮発性原料を配合し、揮発後、粉体原料と固形油性原料及び高粘着性油性原料のみが残存するようにするものもある。しかしこれらの方法は飲食等の外的摩擦に弱く、心地好い使用感を損な

い、経時での色変化、乾燥感を覚えやすくし、口紅本来の機能を損なうものであった。

【0003】本発明は乾燥感や異和感が少なく、飲食等の外的摩擦での口紅の色落ちが目立たない口紅組成物を提供することを目的としている。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は①、2～3価の金属塩及び2～3価の金属の水酸化物の群より選ばれた少なくとも1種とアルギン酸の水溶性塩と構造式中に $\text{—COONa}$ 基又は $\text{—COOK}$ 基を含む赤色系又はだいたい色系タール色素の金属レーキ物の少なくとも1種と20℃に於ける外観が液状の油成分である炭素数16以上の一価アルコールの少なくとも1種とを含むことを特徴とする口紅組成物。②、20℃に於ける外観が液状である油成分が炭素数3以上の一価アルコール又はコレステロールと炭素数8以上の脂肪族カルボン酸の一塩基性酸又はアジピン酸又はオキシステアリン酸又はコハク酸又はリンゴ酸とのエステル化合物の少なくとも1種であることを特徴とする①の口紅組成物。③、20℃に於ける外観が液状である油成分がエチレングリコール又はプロピレングリコール又はネオペンチルグリコール又はグリセリン又はジグリセリン又はトリメチロールプロパン又はペンタエリスリトールと炭素数7以上の脂肪族カルボン酸の一塩基性酸とのエステル化合物の少なくとも1種であることを特徴とする①の口紅組成物である。

【0005】本発明に用いられるアルギン酸の水溶性塩は公知の物質で、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸カリウム、アルギン酸アンモニウム等がある。アルギン酸の分子量は特に制限はされないが、好ましくは5～20万である。

【0006】本発明に用いられる2～3価の金属塩は公知の物質で、塩化カルシウム、炭酸カルシウム、乳酸カルシウム、パントテン酸カルシウム、硫酸カルシウム、クエン酸カルシウム、グリセロリン酸カルシウム、グルコン酸カルシウム、酸性ピロリン酸カルシウム、第一リン酸カルシウム、ケイ酸カルシウム、ステアリン酸カルシウム、メソ酒石酸カルシウム、ラウリン酸カルシウム、酢酸カルシウム、硫酸アルミニウム、塩化アルミニウム、カリミョウバン、硫酸第一鉄、塩化第二鉄、クエン酸鉄、乳酸鉄、ピロリン酸第一鉄、クエン酸第一鉄ナトリウム等がある。さらに、2～3価の金属の水酸化物としては水酸化カルシウム、水酸化アルミニウム、水酸化第一鉄を挙げることができる。

【0007】本発明に言う構造式中に $\text{—COONa}$ 基又は $\text{—COOK}$ 基を含む赤色系又はだいたい色系タール色素は公知の物質で、 $\text{—COONa}$ 基を含むものには赤色104号の(1)、赤色105号の(1)、赤色230号の(1)、だいたい色207号があり、 $\text{—COOK}$ 基を含むものには赤色230号の(2)、赤色231号、赤色232号がある。本発明の特定のタール色素の金属

レーキ物とは上記タール色素をアルミニウム又はバリウム又はジルコニウム等でレーキ化したものである。

【0008】本発明に用いられる20℃に於ける外観が液状である炭素数16以上の一価アルコールは公知の物質で例えば、イソステアリルアルコール、2-オクチルドデカノール、オレイルアルコール、2-ヘキシルデカノール、ホホバアルコール等がある。

【0009】本発明に用いられる20℃に於ける外観が液状である炭素数3以上の一価アルコール又はコレステロールと炭素数8以上の脂肪族カルボン酸の一塩基性酸又はアジピン酸又はオキシステアリン酸又はコハク酸又はリンゴ酸とのエステル化合物は公知の物質で例えば、アジピン酸ジイソステアリル、アジピン酸ジオクチル、イソステアリン酸イソプロピル、イソステアリン酸コレステリル、イソノナン酸イソノニル、エルカ酸オクチルドデシル、オキシステアリン酸オクチル、オクタン酸セチル、オレイン酸オクチルドデシル、オレイン酸オレイル、コハク酸ジオクチル、ステアリン酸イソセチル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ミリスチン酸ミリスチル、リンゴ酸ジイソステアリル、オレイン酸デシル、リシノレイン酸オクチルドデシル等がある。

【0010】本発明に用いられる20℃に於ける外観が液状であるエチレングリコール又はプロピレングリコール又はネオペンチルグリコール又はグリセリン又はジグリセリン又はトリメチロールプロパン又はペンタエリスルトールと炭素数7以上の脂肪族カルボン酸の一塩基性酸とのエステル化合物は公知の物質で例えば、オクタン酸エチレングリコール、パルミチン酸エチレングリコール、イソステアリン酸プロピレングリコール、リシノレイン酸プロピレングリコール、ジ(カプリル・カプリン酸)プロピレングリコール、ジカプリル酸プロピレングリコール、ジミリスチン酸プロピレングリコール、ジカプリン酸プロピレングリコール、ジオクタン酸ネオペンチルグリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、トリイソステアリン酸グリセリル、ジイソステアリン酸グリセリル、トリオクタン酸グリセリル、トリ(カプリル・カプリン酸)グリセリン、リシノレイン酸グリセリル、イソステアリン酸ジグリセリル、ジイソステアリン酸ジグリセリル、トリイソステアリン酸ジグリセリル、トリオクタン酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、テトラオクタン酸ペンタエリスリット等がある。

【0011】本発明に於ける固形口紅でのアルギン酸の水溶性塩の好適な配合量は0.1～5重量%、2～3価の金属塩又は2～3価の金属の水酸化物は0.1～5重量%、構造式中に-COONa基又は-COOK基を含む赤色系又はだいたい色系タール色素は3～20重量%、20℃に於ける外観が液状である油成分は15～45重量%である。

【0012】本発明に於ける液状口紅でのアルギン酸の水溶性塩の好適な配合量は0.5～10重量%、2～3価の金属塩又は2～3価の金属の水酸化物は0.5～10重量%、構造式中に-COONa基又は-COOK基を含む赤色系又はだいたい色系タール色素は1～15重量%、20℃に於ける外観が液状である油成分は15～98重量%である。

【0013】本発明に於ける粉状口紅でのアルギン酸の水溶性塩の好適な配合量は1～20重量%、2～3価の金属塩又は2～3価の金属の水酸化物は1～20重量%、構造式中に-COONa基又は-COOK基を含む赤色系又はだいたい色系タール色素は4～40重量%、20℃に於ける外観が液状である油成分は15～35重量%である。

【0014】本発明の固形口紅には本発明の目的を損なわない範囲で前記の必須成分以外にパラフィン、セレシン、ミツロウ等の固形油性原料やワセリン、ラノリン、重質流動イソパラフィン等のペースト状油性原料や流動パラフィン、スクワラン等の液状油性原料や抗酸化剤、防腐剤、香料等を配合することができる。

【0015】本発明の液状口紅には本発明の目的を損なわない範囲で前記の必須成分以外にパラフィン、セレシン、ミツロウ等の固形油性原料や無水ケイ酸、シヨ糖脂肪酸エステル、12-ヒドロキシステアリン酸等の油性粘剤やワセリン、ラノリン、重質流動イソパラフィン等のペースト状油性原料や流動パラフィン、スクワラン、シリコン油等の液状油性原料や抗酸化剤、防腐剤、香料等を配合することができる。

【0016】本発明の粉状口紅には本発明の目的を損なわない範囲で前記の必須成分以外にタルク、マイカ、雲母チタン、酸化鉄処理雲母チタン、ナイロンパウダー、シルクパウダー等の顔料やパラフィン、セレシン、ミツロウ等の固形油性原料やワセリン、ラノリン、重質流動イソパラフィン等のペースト状油性原料や流動パラフィン、スクワラン、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン等の液状油性原料や抗酸化剤、防腐剤、香料等を配合することができる。

【0017】

【実施例】以下、実施例をあげ、本発明を具体的に示すが、これに先立ち評価項目及び方法に関して詳述する。

【0018】女性パネラー130名を無作為に10人づつ13のグループに分け、10種の実施例試料と3種の比較例試料の口紅、計13種を各グループに配布した後それぞれが塗布し、2時間経過後、口紅が最も落ちやすい中華料理を飲食しその落ち具合を各自の所見により判定し、「色落ちしていない」と答えた人数を示した。尚、実施例試料及び比較例試料は共に塗布後2時間を経過した後、乾燥感や異和感を覚えたパネラーは皆無であった。

【0019】実施例1～10、比較例1～3

表1に示す固形口紅は通常の方法で調製をし前記試験を行い表2にその結果を示した。尚、表1中の数字は重量%である。

\*【0020】

【表1】

\*

		実施例										比較例		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3
組	パラフィン	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
	マイクロクリスタリンワックス	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
	ワセリン	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
	流動パラフィン	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量
	2-オクチルドデカノール	20.0												
	アジピン酸オクチル		20.0											
	コハク酸オクチル			20.0										
	イソステアリン酸コレステリル				20.0									
	イソノナン酸イソノニル					20.0								
	オクタン酸エチレングリコール						20.0							
成	ジカプリル酸プロピレングリコール							20.0						
	ジオクタン酸ネオヘキシルグリコール								20.0					
	トリ(カプリル・カプリン酸)グリセリン									20.0			20.0	
	トリイソステアリン酸トリメチロールプロペン										20.0			
	アルギン酸ナトリウム	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0								1.0
	アルギン酸カリウム						1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			
	炭酸カルシウム	1.0		1.0		1.0		1.0		1.0				1.0
	水酸化第一鉄		1.0		1.0		1.0		1.0		1.0			
	赤色104号の(1)アルミニウムレーキ	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
	酸化チタン	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

【0021】

【表2】

	実施例										比較例		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3
色落ちていないと 答えた人数	8	8	8	9	8	8	10	8	10	8	0	5	3

【0022】実施例12

※行い固形口紅と同様の好結果を得た。

下記組成の液状口紅を通常の方法で調製をし前記試験を※

【0023】

リンゴ酸ジイソステアリル	10.0重量%
テトラオクタン酸ペンタエリスリット	16.0重量%
ジメチルポリシロキサン	3.0重量%
無水ケイ酸	2.5重量%
流動パラフィン	58.1重量%
アルギン酸ナトリウム	2.0重量%
パントテン酸カルシウム	2.0重量%
赤色230号の(2)アルミニウムレーキ	4.5重量%
青色1号アルミニウムレーキ	0.5重量%
黄酸化鉄	1.4重量%

【0024】実施例13

50 下記組成の粉状口紅を通常の方法で調製をし前記試験を

7

行い固形口紅と同様の好結果を得た。

## 【0025】

イソステアリン酸ジグリセリル	10.0重量%
オキシステアリン酸オクチル	17.0重量%
アルギン酸カリウム	8.0重量%
水酸化アルミニウム	5.0重量%
赤色231号アルミニウムレーキ	5.0重量%
赤色104号の(1)バリウムレーキ	12.0重量%
青色1号アルミニウムレーキ	0.5重量%
硫酸バリウム	5.0重量%
マイカ	17.5重量%
雲母チタン	20.0重量%

## 【0026】

【発明の効果】以上記載のごとく、本発明は乾燥感や異

和感が少なく、飲食等の外的摩擦での口紅の色落ちが目立たない口紅組成物を提供することは明らかである。

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**